

美は国境を越えて

—響き合う東西の視線

西洋美術史の泰斗・宮下規久朗と日本美術史の気鋭・菅原真弓

2026. 9. 5 SAT.

二人の視点が交差する時、私たちが知っている「美術」の常識が塗り替えられる。芦屋ルナ・ホールで、東西の美が響き合う贅沢なひとときを・・・

開演 14:00 開場 13:30

ルネサンス クラシックス 芦屋ルナ・ホール



宮下規久朗
神戸大学大学院人文学研究科 教授

東京大学文学部美術史学科卒業、同大学院修了。
著書「カラヴァッジョ - 聖性とヴィジョン」で
サントリー学芸賞受賞。他、多数の著書がある。

この夏、フェルメールの《真珠の耳飾りの少女》がハーグのマウリッツハイス美術館から大阪に来日します。この絵を生み出した17世紀のオランダは黄金時代と呼ばれ、世界の美術の中心地でした。その余波はオランダと交易していた江戸時代の日本にも出島を通じて及び、ユニークな洋風画を生み出しました。この講演では、展覧会出品作を中心に、オランダ黄金時代の美術の魅力と、その影響を受けた日本の洋風美術について紹介します。

~Program~

- 14:00 講演：宮下規久朗
「フェルメール《真珠の耳飾りの少女》と日蘭美術」
- 14:45 講演：菅原真弓
「世界を揺るがした浮世絵 — ジャポニスムの真実」
- 15:40 対談：宮下規久朗&菅原真弓
「美は国境を越えて — 響き合う東西の視線」



菅原真弓
大阪公立大学大学院文学研究科 教授

学習院大学大学院人文学研究科哲学専攻博士後期課程単位修得退学。2008年「十九世紀日本版画における風景主題と歴史主題」で博士（哲学）を取得。「月岡芳年伝 幕末明治のはざまに」（中央公論美術出版）の成果により芸術選奨文部科学大臣新人賞（評論等部門）受賞。他、多数の著書がある。

西欧で初めて「発見」された日本美術は、葛飾北斎『北斎漫画』だったとする逸話があります。「浮世絵」は、19世紀後半の、フランスを中心とする西欧社会に熱狂的な日本美術愛好ブーム（ジャポニスム）をもたらしました。マネやモネ、ルノアールら印象派の画家たちの作品に描き込まれた浮世絵風のモチーフは象徴的です。一方、ジャポニスムは、ようやく世界に扉を開いた近代日本の政策にも影響を与えていきます。本講演では、ジャポニスムを象徴する作品のご紹介と共に、これが日本に与えた影響についても触れたいと思います。

全席自由

前売り券 1,000円 (当日券 1,500円)

発売日 2026年 7月 1日 (水) 午前9時~

※市役所売店は午前10時~

取扱場所

芦屋市民センター事務所 (休館)

(9)~(14)午前9時~午後5時30分、(15)~(16)午後5時まで)

芦屋市役所・売店 (平日午前10時~午後4時)

公民館ホームページ (電子チケット or フォーム予約)

チケット購入/予約



<https://ashiya-kominkan.com>

ローソンチケット (Lコード 52278)

※未就学児は入場できません

主催：芦屋市 問い合わせ：芦屋市立公民館 (0797・35・0700)

芦屋市業平町 8-24